

やまぎん

アジアニュース

2019年5月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



【香港駐在員事務所】

中国本土と香港のキャッシュレス事情について

1. はじめに

先日、香港の隣、中国本土の深圳で開催されたイベントに出席した時のことですが、昼食を簡単に済ませようと思い、イベント会場の傍にあった喫茶店に入りました。するとすぐに店員さんから、「現金（人民元）は使えないけど、大丈夫か？」と聞かれました。理由を聞くと、「お釣りを用意していない」とのことでした。その時私はクレジットカードを持っていたので、カードを見せて入ろうとしましたが、「カードも使えないよ、『Alipay（以下、アリペイ）』や『WeChat Pay（以下、ウィーチャットペイ）』は持ってないのか？」と尋ねられました。私はアリペイもウィーチャットペイも持っておらず、結局、その喫茶店では食事ができませんでした。気を取り直して、別のお店に行ったのですが、そこでも同じようなやり取りがあり、時間もあまり無かったので、現金が使えるコンビニエンスストアでパンと飲み物を買いました。

深圳には何度も訪れたことがあり、アリペイやウィーチャットペイが爆発的に普及してキャッシュレス化が進んでいることは感じていました。今でも現金が使える店の方が多いとは思いますが、入店を拒否されたことはその時が初めてだったので大変驚きました。中国の中央銀行に当たる中国人民銀行から、原則としてあらゆる組織や個人に対し、現金支払いへの対応を義務付ける公告も出されていますが、実際には守っていない店もあるというのが現状のようです。

2. 中国本土でキャッシュレス決済が普及した理由

今や中国本土の都市部では、アリペイ、ウィーチャットペイ等のスマホ決済（QRコード決済）が最も利用される決済手段になっています。小売店はもちろんのこと、道端の露天商や自動販売機、地下鉄やバス、タクシー、シェア自転車など様々な場面で利用可能です。

中国本土でQRコード決済が普及した理由の1つには、中国本土では偽札が多く出回っており、一般的に現金の信頼度が低いということがあります。また、たとえ本物であっても今にも擦り切れそうなものや、非常に汚いものも多く、受け取りを拒否されることも多いようです。更に、中国元の紙幣は100元（約1,650円）が最高額紙幣であるため、財布が大変嵩張りやすいなどの不便な点があります。

その他の理由として、QRコード決済の加盟店になる際に審査がなく、手数料が実質不要となる場合が多いので、加盟店が一気に広がり、どこの店でも使える環境が構築できたことがあります。加盟店となれば、偽札を恐れることがなく、また、クレジットカードのような立て替え払いではなく即時決済であることも、大きな魅力となったことでしょう。

3. 香港のキャッシュレス決済の現状

香港は中国の一部ですが、キャッシュレス決済の事情は中国本土とは異なります。香港のキャッシュレス決済で普及しているものは、主にオクトパスカード（八達通）という交通カードと、クレジットカードです。オクトパスカードは地下鉄やバスの支払いだけでなく、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、レストランなどでも使えます。チャージ可能額は最高1,000香港ドル（約14,000円）までで、普段の少額の支払いは殆どオクトパスカードで済ませることができます。チャージもコンビニエンスストアなどで気軽に行えます。英国の租借地でもあった香港では早くからクレジットカードが普及しており、高額な支払いの時にはクレジットカードを利用するというスタイルが定着しています。



「オクトパスカード読み取り機」

但し、香港の人達は現金も持ち歩きます。大きな理由の1つが、タクシーの支払いの際、現金しか使えない場合が多いことにあります。また、中国の元と違い、香港ドルへの信頼度が高いことも理由の1つでしょう。

中国本土で普及しているアリペイやウィーチャットペイなどのQRコード決済は利用可能ですが、まだ香港人の中ではそんなに利用されておらず、現状は日本同様に中国人観光客用といっても過言ではありません。

4. 香港のキャッシュレス決済の将来

香港では2018年9月30日から、ファスター・ペイメント・システム（以下、FPS）の運用が開始されています。FPSには、HSBC（香港上海銀行）などの銀行、オクトパスカード、アリペイ、ウィーチャットペイなどの電子決済サービスが参加しており、異なる銀行や電子決済サービスの間で24時間365日、電話番号、Eメールアドレス、QRコードを使って、即時送金・決済が可能であり、香港ドルと人民元の両通貨にも対応しています。

このFPSが浸透していけば、アリペイにしか対応していない店でもオクトパスカードで支払いができるようになります。また、オクトパスカードにしか対応していない店で、アリペイやウィーチャットペイによる支払いが可能になりますので、香港人にも中国人にも利便性がかなり高まります。

個人的には、香港のタクシーで電子決済サービスによる支払いが一般的になれば、一気に香港のキャッシュレス化は進むものと思いますが…。

5. 終わりに

2018年の訪日外国人数は3,119万人でした。右肩上がりに訪日外国人数が増える中で、受入れサービスの一環として電子決済サービスの導入を考えておられる方も多いのではないのでしょうか。私の少ない経験ではありますが、海外への訪問で現地通貨とクレジットカードがあれば困った経験は殆ど無く、今のところ、上記のとおり中国本土だけが特別にQRコード決済が普及しているといった印象です。したがって、中国本土からのお客様が多いのであればQRコード決済で人気のアリペイとウィーチャットペイに対応できるようにするといったところで、当面は良いのではないかと思います。知人の香港人数名に日本に旅行した際の決済手段をヒアリングしたところでも、現金とクレジットカードが大半でした。

山口フィナンシャルグループでは、山口銀行、もみじ銀行、北九州銀行にて、みずほ銀行が提供するQRコードを活用したスマホ決済サービス「J-Coin Pay(ジェイ コイン ペイ)」アプリへの、当社グループ銀行の預金口座登録を3月25日から開始しております。J-Coin Payは海外からのお客様へも対応するためアリペイや中国銀聯とも連携しており、今後はアジアを中心に提携先を広げる計画となっています。個人のお客様・法人のお客様のキャッシュレス化への取り組みを促進することで地域経済の活性化に貢献していく所存ですので、ご興味ございましたら是非最寄りの営業店にお声掛けください。

(山口銀行香港駐在員事務所 松本 好弘)

【参考文献】

- ・人民網日本語盤
「香港地区のFPS(転数快)が運用開始」(2018年10月1日)
- ・日本政府観光局(JNTO)
「訪日外客数(2018年12月および年間推計値)」(2019年1月16日)
- ・山口新聞
「地銀50行 スマホQR決済～キャッシュレス普及後押し」(2019年2月17日)
- ・中華IT最新事情 中国を中心にしたアジアのテック最新事情(2019年4月23日)
<http://tamakino.hatenablog.com/entry/2017/10/31/08000>